

はくかんさん



本年も宜しくお願い致します。お婆さんは98歳、大洋5年生、采海4年生になります。

第84号 H25年正月号

伊豆市 法住寺 発行

「寿量の祈り」

大自然

ありがとうございます。

社会の皆さん

ありがとうございます。

ご先祖さま、家族の皆さん

ありがとうございます。

南無妙法蓮華經

感 応

昨年の暮れゴッホの糸杉を観た。メトロポリタン美術館展（東京都美術館）、日本で初公開であった。ジツと絵に向かう。

黒々と渦巻くような糸杉が天にまで届き、



さ、たくましさと一体になりながらも、体の底から噴出する情熱。

*

ゴッホの絵との出会いは二十数年前、世田谷美術館であった。入口から直ぐのコーナーを曲がると、明るく輝くものすごいパワーが飛び込んできた。強烈に渦巻く「ひまわり」だった。それ以来ゴッホの展示があると聞けば、出かけてホンモノを観てきた。

*

糸杉を観て「絵は感応(かんのう)、心で観て感ずるもの」だとあらためて思った。あたり前のようなことだが、気付かないうちに絵が描かれた背景、画家の生い立ちなど、知識で見ようとしてきたように思う。だから頭ではわかってはいるつもりでも、心の中がスッキリしない、湧き上がる感動がないのである。

現代の私たちは、知識・合理に重きをおき、素直に喜んだり畏怖したり、感動したりという情緒的なものを二の次にしてきたと思う。

情緒的なものを大切に、知性・合理と調和させ、人々が多様な価値観を認め合っていけば、もっと大らかに愉快地に豊かに生きていけると思う。

*

「感応」と云えば、ちょうど一年前のサッカーの清武弘嗣選手の記事(朝日新聞)を思い出す。法住寺のブログ(H24.1.10)から一部を抜粋する。

「家ではどのように過ごしていますか」というインタビューに、「独身のときは練習が終わって帰ると、毎日掃除してました。今でも、妻と一緒に掃除機かけたり、ぞうきん掛けをしたりしてます。風呂に入るよりも掃除で元気になる。趣味、掃除っすね。長谷部誠さんも本に書いてました。掃除すると心が整うって。まったくその通りだと思いましたね。」

清武選手のロンドン五輪での活躍を観ているほどに思った。試合中の瞬間の判断、それは「感」であり、何時も身を清浄にしているこそ的確に「応」ずることが出来るのだと。

*

感応するには身边を清浄にすることが善いようだ。心したいと思う。

命を輝やかす

真間山弘法寺の石野日英貫首さまの本葬儀

が十二月三日に行われ昌子寺庭と参列、心からお送り致しました。十六日には木更津市光明寺にて「偲ぶ会」がもたれ記念冊子を頂きました。その中から一部を掲載させていただきます。

年 頭 所 感

平成十二年(2000年)

命を輝やかすの今年のテーマ

情報の洪水(インターネット他)の中で
自分を見失わず 毅然と生きていく。

情報に振りまわされるのではなく
このように生きてみたいという自分自身の
人生を確立する
それには 命を輝やかす短い人生の中で
それを燃やせることを念頭に置き
同時に祈りを捧げ続けることである。
祈りは成就すると云う信念を持つ事。

大らかに、愉快に豊かに
他の平和、幸福に深い思いを至して。

様にあります。添え書きに次のように書きます。念冊子を頂きました。その中から一部を掲載させていただきます。

平成十二年の日記の最初から

真間山弘法寺に晋山が決まり、貫首となる覚悟や行動規範を日記に書いたものとおもわれる

お寺の庭に花いっぱい

昌子寺庭の山務日誌より

「奥さくらん、うちの子は嫁にいったよ」とその母親は、只々、嬉しそうに話をしてくれました。その話を聞きながら、私は昔のことを思い出していた。

それはまだ、その娘さんが小学生の頃だった。そのお母さんは「この子は、生きていくだけでいいの」と言った。

その訳は、もっと小さな頃、二階から転落して命を落とす

ところだったのに(奇跡的に)難をのがれて助かったから、生きたからと言っていた。そのことをなぜか私は覚えていて、懐かしく思い出しながら「良かったね。嬉しいねえ」と言葉を返したのだった。

*

お寺の過去帳をみると、今よりずっと多くの子供たちの戒名が記されている。そう、我が子が大人になれるのが当たり前でない時代があったのだと知る。病氣、あるいは事故。人間も自然なのだから、いつ何が起きるかわからない前提で生きていたのかもしれない。今では、にぎやかにお祭りのようになってしまった七五三や成人式も、質素ではあるが「生きる覚悟」を持って深い祈りを捧げたに

謹賀新年



法住寺護持会

〔総代、護持会長〕 山下一

〔総代、副会長〕 伊東修

〔総代〕 佐藤雄一

〔世話人〕 山下要、飯田忠、飯田政春、

室野好信、小塚順一、山下誠次、

森野健次、山田安夫、杉山修

〔監査〕 佐藤賢吾、小塚康清

中伊豆立正大題目講(当山)

〔副会長〕 滑川美奈江

〔顧問〕 小塚勝

〔世話人〕 山下要、井本まつ、伊東はつ江、

三田五月、山下しづか、伊東すゑ子、

伊東ちゑ子、三田幸子、山崎まち、

伊東通子、滑川正勝、森野一夫、

小塚正司、山下清、小塚孝夫、

小塚貞夫、小塚康清、山本宏衛、

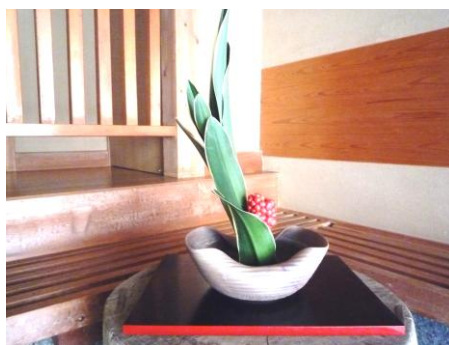
小塚愛子、森野はま江、山下千代子、

佐藤雄一、佐藤賢吾、佐藤秀夫、

杉山しまゑ、山本義富

伊豆連合大題目講(当山)

〔理事〕 山下要



れでも今日という日、目の前の小さな命に心をよせよう。

*

時代は新しくなっても、いつ何が起こるか分からないという「覚悟」を持って「祈る」ということを忘れてはならないと、その奥さんは、教えてくれた様に思う。

トピックス

境内整備作業

年末のご奉仕は小川地区の皆さんで、十二月九日(日)に、道路に面した榎の大木の枝払い等をお願いしました。若いサラリーマンの方が多く、貴重な休みの日でしたが、皆さん気持ち良く作業して下さいました。

ちがいない。

今は子供が大人になるのは当たり前前で、その前提にたって小さな頃から叱咤激励してしまいがち。そ



ました。

十二日講の皆さんは、日を変えて二十一日に草取り、落ち葉掃除など境内清掃して下さいました。

翌二十二日には、遠方から二人の信者さんがボランティアで来山。本堂や書院の電灯、柱まで丁寧に終日、ご奉仕下さいました。

皆さん、ありがとうございました。おかげさまで清浄に正月を迎えることができました。

今年の行事

星祭

期日 一月二十七日(日曜日)

水行 午後一時四十分 御祈祷会 二時

一年の安泰と毎日のご守護を祈り、善い運氣を頂きましょう。

詳しくは別紙、ホームページをご覧ください。また遠慮なくお問い合わせください。

本堂積立、本年三月まで

平成十一年四月より十四年間の長きにわたり、お願いしてまいりました本堂建立積立金が、本年三月をもちまして完了となります。本当に長い間、ありがとうございました。

本堂会計の閉めについては、護持会役員会で検討し、秋のお会式総会には最終報告し、御礼を申し上げたいと思います。

伊豆連合大題目講、中伊豆立正会

伊豆連合大題目が当山で開かれます。

中伊豆立正会は七月です。この会は檀家さん全員が会員ですから、お互いに誘いあつて地元のお寺にお詣りしましょう。

今年の境内整備

春 清水②、夏 元村③、秋 元村①

冬 西、と予定されています。

宜しくお願い致します。

宗務所関係

小松原法難から七五〇年に当たりますので、十一月に法難の地、小松原・鏡忍寺(千葉県鴨川市)団参を予定しています。



洋明さんのおはなし

先日、子供たちが「〜が欲しい。お願い、買って！」とせがんできました。「何で」と聞くと、「みんな持つてるから〜」と、そこで妻が一言、伝家の宝刀「ウチはウチなの」。

思えば、私も子供のころ親によく言われたものです。欲しくても買ってもらえない。これは、大人になっても同じ。欲しいものが変わっただけで、隣の芝生が青く見え、しかしなかなか欲しいものが手に入らない。

まさに四苦八苦の一つ「求不得苦」。

*

「ウチはウチ」この言葉は、親の都合だけで言っているように思えますが、実はとても深い言葉です。

法華経に「不染世間法 如蓮華在水」という一節があります。仏さまの花である蓮は、泥沼に咲きます。けれどその花は、決して周りの不浄な泥に染まることなく凜として清浄に咲くのです。「周りに染まることなく、流されることなく、あなたはあなたでいなさい」と。

さらにこの不浄とされる泥には、蓮の花を咲かせる力があることを忘れてはいけません。「無駄なことは何もない」とはこのことです。自分に合わないことや、都合が悪いことには、自らを成長させる力があるのです。「長いものにはまかれる」とよく言いますが、面倒だから、楽だからと思いまかれるのは、三悪道の一つ畜生の心といわれています。時には、まかれてしまうこともあるでしょう。染まることもあるでしょう。ですが、まかれ過ぎず、染まり過ぎず、周りで起こることには、自分を成長させてくれる力があることを忘れないで下さい。

*

今年は、我が家の伝家の宝刀「ウチはウチ」を携えて、一人でも多くの方が、一輪でも多くの蓮の花を咲かせていただけるよう、皆さまのお参りをお待ちしております。

御志納金「十一月〜十二月」

五十万円 清水 小塚 俊殿 尊父七七忌 忌

十万円 元村 山下 要殿 尊母一周忌 忌

十万円 大仁 巽 智殿 寿量の塔納骨の 砌

十万円 清水 西島辰廣殿 愛妻葬儀の 砌